

はじめに

この本は、日本の大学や大学院で勉強している日本語学習者が、**日本語でレポートや論文を書くために必要な日本語文法**を学ぶ本です。

学習者のみなさんは、レポートや論文を書く時に、『は』と『が』はどうやって使い分ければいいのか、**「レポートは受身形をよく使うと聞くけど、どこで使えばいいのだろうか？」**等、すでに勉強したはずの文法の使い方がわからなくなることがありませんか。一方、日本語教師のみなさまは、学習者のレポートや論文を添削していて、**「何度も同じ文法の誤りを指摘しているのに、なかなか修正されない」「この文法を使うのは不自然だけれど、どう説明したらいいだろうか」**と思われたりすることもあるでしょう。そこで、学習者のみなさんが独学でも勉強でき、また、教師のみなさまがアカデミック・ライティングの授業でも使えるような「**レポート・論文を書くための日本語文法**」の教材を作成したいと思ったのが、この教材の出発点です。

本書の特長は以下のような点です。

- ・本書は**日本語能力試験 N2 程度以上の学習者**を対象に作成しています。
- ・日本語学習者がレポートや論文を書く際に**誤りやすい文法項目**を扱っています。
- ・全 14 課のうち、前半(1～7 課)は単一文レベルでの使い方に関わる文法項目を扱い、後半(8～14 課)は**談話レベルでの使い方に関わる文法項目**を扱っています。
- ・学習者によくある誤りを、各課の冒頭でレポート形式の例文の中に提示し、**誤りの意識化**を促しています(例は、すべて作例です)。
- ・各文法項目の学習によって**レポートや論文で何ができるようになるのか**、また、それらが実際に**レポートや論文でどのように使用されるか**が、明記されています。
- ・学習者が**興味を持てるような現代日本の社会的・文化的テーマ**に関する例文や練習問題になっています。
- ・**実際のレポートや論文での使い方がわかるような形式の練習**ができるようになっています。

本書をお使いいただくことによって、学習者のみなさんにとってレポートや論文作成のための日本語文法が理解しやすくなり、また、教師のみなさまにとっては、効果的なライティング指導の一助となれば幸いです。

本書作成にあたり、終始貴重な助言を賜りました筒井佐代先生(大阪大学)に感謝の意を表します。ヴォーゲ・ヨーラン先生(神戸女学院大学)には、本書の主旨をご理解いただき、タイトなスケジュールの中、適切な翻訳をしていただきました。また、田山博子先生には立命館大学と佛教大学で、辻恵子先生には立命館大学で本書試作版を実際にお使いいただき、多くの示唆をいただきました。ここに感謝いたします。そして、本書試作版を使い、学習者としての率直な意見をくださった大阪大学、立命館大学、佛教大学の留学生のみなさまにも心より感謝申し上げます。最後に、私たちの本書作成への思いをご理解くださり、多くの方に使っていただける教材になるようにも考え続けてくださったくろしお出版の市川麻里子さん、坂本麻美さんにお礼申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

2016 年 10 月
小森万里・三井久美子

目次

はじめに i

この本の使い方(学習者のみなさまへ) iv

この本の使い方(教師のみなさまへ) vi

実力試しテスト ix

第1課 書き言葉に統一する 1

書き言葉の文体と表現

Q&A ① 8

第2課 文の意味を明確にする 9

複文の適切な使い方

Q&A ② 17

第3課 「こと」と「の」を使い分ける 18

名詞節「こと」と「の」の使い分け

Q&A ③ 25

第4課 文をシンプルにする 26

語や節の名詞化

Q&A ④ 32

第5課 語彙を適切に選択する 33

レポート・論文でよく使う語彙の使い分け

Q&A ⑤ 40

第6課 文を首尾一貫させる 41

文頭と文末との呼応

第7課 形が似ている表現を使い分ける 48

助詞相当語の使い分け

Q&A ⑥ 56

第8課 「は」と「が」を使い分ける 57

助詞「は」と「が」の使い分け

第9課 書き手の視点を示す 66

他動詞・自動詞(使役形・受身形)

Q&A ⑦ 74

第10課 過去と現在のつながりを示す 76

ル形・タ形・テイル形・テイタ形

Q&A ⑧ 84

第11課 文章の中の語を指し示す 86

指示詞「こ」と「そ」の使い分け

第12課 前後の関係を表す 95

接続詞・接続表現の使い分け

第13課 前の文に関係づける 106

「のだ文」の使い方

第14課 効果的に意見を述べる 113

意見を述べる文末表現の使い分け

用語説明 125

索引 138

提出課題順リスト 141

参考文献 143

この本の使い方（学習者のみなさんへ）

独学での使い方

- ① 文法説明と例文があるので、説明を読んでから練習問題にチャレンジする、という形で一人でも勉強することができます。
- ② 「さらに練習したい人のために」以外の練習問題は、すべて解答や解説がついているので、理解できたかどうかを自分で確認することができます。
- ③ 各課が独立しているので、好きな課から勉強を始めることができます。
- ④ レポートや論文を書く時、文法の辞書のように使うことができます。「この文法はどう使えばいいのかな？」とわからない時には、その文法を扱っているページの文法説明を読んでみましょう。
- ⑤ 巻末に、文法用語の説明と例文が載っているので、わからない時は調べてみましょう。

活動	ねらい	内容
各課のタイトル	文法項目を選ぼう	レポートや論文の中でどんなことをしたいのか(どんな働きを持つ文法を勉強したいのか)が、タイトルからわかるようになっています。



TRY : まず、やってみよう	誤りやすい点は何かを知ろう	その課で勉強する文法項目について、みなさんが誤りやすい点を示しています。できなかった問題は、各問題の下に「⇒ステップ1」と書いてあればステップ1を、「⇒ステップ2」と書いてあればステップ2を見てください。それぞれのステップに詳しい説明と練習問題があります。
--------------------	---------------	--



POINT : ここがポイント	文法のポイントを知ろう	その課の文法項目が文章の中でどのような働きを持っているのかが書かれています。
--------------------	-------------	--



▶ステップ1	基本的な使い方を勉強しよう	その課の文法項目の基本的知識が勉強できます。易しければステップ1はとばして、ステップ2に進みましょう。
--------	---------------	---



▶▶ステップ2	応用的な使い方を勉強しよう	ステップ1を踏まえてさらに注意すべきことや、長い文章になった時の注意点など、応用的な使い方が勉強できます。
---------	---------------	---



注意	例外や間違えやすい点を知ろう	ステップ1、ステップ2での文法説明の中で、例外等、気をつけなければならないことについて勉強できます。
-----------	----------------	--



レポート・論文で実際にどう使う？	レポート・論文の中の使い方を知ろう	ステップ1、ステップ2で学習した項目は、レポートや論文の中のどこでどのように使用されることが多いか、どのような目的で使えばよいかわかります。
------------------	-------------------	--



実践：使ってみよう	実践練習しよう	レポートや論文の文章で、その課の文法項目を使ってみる練習をします。本当に文法が使えるようになったか、確認してみましょう。
-----------	---------	--



さらに：練習したい人のために	実際に書いてみよう	実際にレポートや論文の形で書いてみたい人は、挑戦してみましょう。トピックは自分の好きなものに変えてもいいです。書けたら、日本語の先生や日本人の友だちに読んでもらい、正しく、わかりやすい文章になっているか、見てもらいましょう。
----------------	-----------	--



Q & A	よくある質問	各課の文法について、学生のみなさんからよく出る質問が載っています。知っておくと便利な情報が入っています。
-------	--------	--

実力試しテストの使い方

この本の最初に、「実力試しテスト」がついています。

まず、この本での勉強を始める前に、このテストをやってみてください。レポートや論文を書く時に、間違えやすい文法が問題になっています。各問題の後ろに課が書いてありますから、苦手な課から勉強を始めることもできます。

この本での勉強がすべて終わったら、もう一度「実力試しテスト」をやってみてください。この本を勉強する前よりどのぐらい点数が伸びたかを自分で確認しましょう。また、苦手な課があれば、もう一度復習しましょう。

用語説明

本文中に＊印が付いている文法用語がわからない時は、巻末の「用語説明」を見てください。それぞれの文法用語が、日本語と英語で説明されています。

解答・解説（別冊）

別冊には、各課の練習問題の解答・解答例や解説が載っています。

この本の使い方（教師のみなさまへ）

授業での使い方

- ① アカデミック・ライティングの授業や、アカデミック・ライティングのための文法の授業で使うことができます。
- ② レポートや論文に必要な文法項目の中で、特に学習者が誤りやすいものを集め、その文法をどんな目的で利用できるかを示すことができます。
- ③ 14 課構成なので、大学の授業(セメスター制の半期、ターム制の 2 ターム)で主要教材として使うことができます。
- ④ 各課が 2 つのステップに分かれているので、ステップ 1 を宿題(予習)にして、ステップ 2 を授業で扱うという方法をとることができます。
- ⑤ まず課全体を学習者に予習させておき、授業では学習者が疑問に思った点を取り上げて指導することもできます。
- ⑥ 学習者の苦手な課だけを選んで、補助教材として使うこともできます。
- ⑦ 1 文レベルでの練習問題は少なくし、なるべく実践的に使えるようになるよう、談話レベルでの練習問題や、レポート・論文の型に沿った練習問題になっています。
- ⑧ 各課末にその課で学んだ文法項目を実践できるような課題があるので、実際に課題を書かしてみると、効果的です。

授業では、以下の順序で扱っていただくとよいでしょう。1 課を 1 コマ 90 分の授業で行う際の、時間の目安を示します。

活動	ねらい	内容
各課のタイトル	どんな文法を扱うかを選ぶ	レポートや論文の中でどのような言語行動をしたいのか(どのような目的を果たすための文法が勉強できるのか)が、タイトルからわかるようになっています。
↓		
TRY : まず、やってみよう [10 分]	誤りやすい点を意識化する	その課で勉強する文法項目について、学習者が誤りやすい点を、レポート調の文章の中で示しています。各問題の下に「⇒ステップ 1」と表示があれば、ステップ 1 に詳しい説明と練習問題があることがわかります。
↓		
POINT : ここがポイント [5 分]	文法項目のポイントを知る	その課でどんな文法項目を勉強するのか、その文法項目は、文章の中でどのような機能を果たすのか、というポイントが書かれています。このポイントを念頭にステップ 1、ステップ 2 と学習していけば、押さえておくべき重要ポイントが意識化できます。

↓		
▶ステップ 1 [20 分]	基本的な使い方を学習する	その課で勉強する文法項目について、基本的におさえておくべき用法・使い分けや、単一文レベルでこの文法を使う時の注意点等を扱っています。簡単な日本語での説明と例文の後、練習問題で理解を確認します。
↓		
▶▶ステップ 2 [25 分]	応用的な使い方を学習する	前半の課ではステップ 1 を踏まえてさらに注意すべきこと、後半の課では談話レベルでこの文法を使う時に注意すべきこと等、応用的な使い方を扱っています。日本語での説明と例文の後、練習問題で理解を確認します。
↓		
[5 分] 注意 !	例外や間違いやすい点に注目する	ステップ 1、ステップ 2 での文法説明の中で、例外や間違いやすい点等、気をつけなければならないことについての説明が書いてあります。
↓		
レポート・論文で 実際にどう使う？ [5 分]	レポート・論文での使い方を意識化する	ステップ 1、ステップ 2 で学習した項目は、レポートや論文の中のどこでどのように使用されることが多いか、どのような目的で使えばよいかを説明しています。
↓		
実践： 使ってみよう [20 分]	実践練習をする	「レポート・論文で実際にどう使う？」を踏まえて、レポートや論文の型の文章で、その課の文法項目を使ってみる練習をします。多肢選択式ではないので、学習者自身で適切に文法を使用する練習ができます。
↓		
さらに： 練習したい人の ために	課題を出す	授業で必ずしも扱う必要はありませんが、学習項目の実践課題を書かせることができます。学んだことを使って実際にレポートの一部を書いてみる課題を与えたい場合にお使いください。課題のトピックは、学習者の興味に応じて適宜変えていただくとよいでしょう。
↓		
Q & A	学習者の質問に答える	各課の文法について、学習者からの質問に答える形で、知っておくと便利な情報が載せてあります(1、2、3、4、5、7、9、10 課)。このコーナーを読むことで、文法の使い方をさらに詳しく知ることができます。

実力試しテスト

本書の最初に、「実力試しテスト」がついています。「実力試しテスト」は、本書での勉強を始める前に、学習者がどの程度、レポート・論文を書くための文法知識があるか測るためのテストです。第 1 週目に学習者の実力を測るために行ったり、宿題として課したりすることができます。また、本書での授業終了時に、達成度を測るために使っていただくこともできますので、必要に応じた形でお使いください。

用語説明

本文中に＊印が付いているものは、巻末の「用語説明」をご参照ください。これは、各課に出てきた専門的な文法用語について、この教材ではどのように定義しているかを説明したものです。用語と解説に、英語訳を付けました。

解答・解説（別冊）

「解答・解説」は各課の練習問題の解答や解答例を示したもので、必要な場合には解説が付いています。

実力試しテスト

じつりよくため

- ★この本での勉強を始める前に、この「実力試しテスト」をやってみましょう。各問題の後ろに課が書いてありますから、苦手な課を重点的に勉強することができます。
- ★この本を全部勉強した後で、もう一度この問題をやってみましょう。勉強を始める前より、よくできるようになりましたか？



問題 1 次の文は、レポートの一部です。下線部には、レポートにふさわしくない文法・表現があります。正しく直してください(直さなくていいものもあります)。(1点×19＝19点)

- ① (a)佐藤先生(2013)によれば、社会に対して閉塞感を持つ若者が年々 (b)増えてる (c)ということである。(⇒1課)
- ② 自国の文化を十分に理解した上で、異文化を理解することが (a)すごく (b)大切なんじゃないでしょう。 (c)うか。(⇒1課)
- ③ 現代は、 (a)いじめもあるし、 (b)児童虐待もあるから、子供にとって大変な時代だと言える。(⇒1課)
- ④ A市はゴミを (a)分別・回収して、 (b)焼却をして、ゴミの減量に成功した。(⇒1、2課)
- ⑤ 仮にアジアの通貨統一に (a)成功すれば、経済状態が (b)悪化すれば、加盟し続けることが困難になる国も出てくるだろう。(⇒2課)
- ⑥ 消費税率の引き上げは、庶民の生活を圧迫を引き起こした。(⇒4課)
- ⑦ 祭りの運営がうまくいくかどうかは、学生アルバイトと地域ボランティアの協力するにかかっている。(⇒4課)
- ⑧ 人口が上昇すればするほど、都市問題も深刻になる。(⇒5課)
- ⑨ このレポートでは、複雑化になった現代社会と芸術との関係を述べたい。(⇒5課)

⑩ 外国人が日本について抱くイメージのベスト3は、治安のよさ、人々の真面目さ、マンガやアニメ文化が優れていることである。(⇒4、5課)

⑪ その国が教育に力を入れ始めた理由は、将来を担う子供たちに投資すべきだと教育大臣が考えた。(⇒6課)

⑫ 外国人が漢字を学習する時に難しいと感じる点は、一つの漢字が複数の読み方を持っている。(⇒6課)

⑬ この調査から、子供に暴力的なゲームをさせることがいかに危険であるがわかるだろう。(⇒6課)

問題 2 次の{ }のうち、適切なものに○をつけてください。答えは1つとは限りません。
(1点×31＝31点)

① 本稿の目的は、大学を卒業する学生たちの進路決定要因を明らかにする{ } こと・の { }である。(⇒3課)

② 日本人の海外旅行先として最も人気が高いのが中国である{ } こと・の { }に対し、中国人の海外旅行先として最も人気が高いのは韓国である。(⇒3課)

③ このデータは、日本は英語の授業時間数が多いにもかかわらず、TOEICの成績が低い{ } こと・の { }を示している。(⇒3課)

④ この人工島が、ゴミ処分場{ } に対して・にとって・として { }適切であるとは思えない。(⇒7課)

⑤ 全国保険医団体の調査{ } によって・にとって・によると { }、医療費の負担が大きいため、病気になるっても病院に行くことができない家庭が増えていることがわかった。(⇒7課)

⑥ 中高生(a){ } は・が { }、たばこ(b){ } は・が { }健康に悪いことを知っていても、友だちに誘われると断れずに吸ってしまう傾向があるようだ。(⇒8課)

⑦ 少子化によって、どのような問題{ } は・が { }起こるのだろうか。(⇒8課)

⑧ 私{ } は・が { }、日本の人々が政治に無関心であることが問題であると考える。(⇒8課)

⑨ 戦後すぐの日本は貧しかった。しかし、人々が互いに助け合う社会であり、精神的には豊かだったと言える。それに比べ、現代社会は物質的には便利になったが、精神的{ } に・には { }

ストレスが多く厳しい社会になっている。(⇒8課)

⑩ A市はゴミ回収を有料化して、ゴミの量{ } が減った・を減らした・が減られた { }。(⇒9課)

⑪ 政府はたばこの税率を上げようとして、国民{ } は反対した・は反対させた・に反対された { }。(⇒9課)

⑫ 入場料の値下げが、休日の遊園地{ } を混雑した・を混雑させた・は混雑された { }。(⇒9課)

⑬ 現在、オンラインゲームはさまざまな理由から若者の間で人気と(a){ } なる・なっている { }。その反面、問題点もある。このレポートでは、オンラインゲームの魅力と問題点を探っていき

たい。

オンラインゲーム協会(2012)は、オンラインゲームの第一の魅力は、「誰かが一緒にいる」という安心感が得られることだと(b){ } 述べた・述べている { }。インターネットが普及する以前は、他の人と通信しながらできるゲームが少なかったため、ゲームは一人で(c){ } プレイされていた・プレイされている { }が、現在はオンラインで複数のユーザーが同時にゲームに参加できるように(d){ } なる・なっている { }のである。

また、オンラインゲーム協会(2012)は第二の魅力として、「シナリオの自由度が高い」ことを(e){ } 挙げた・挙げている { }。実際のユーザー同士でグループを作り、ゲーム内を自由に移動することができるため、独自の冒険ができるのである。

このようなオンラインゲームは、問題点も多いことが(f){ } 知られた・知られている { }。その最も大きなものは、簡単に人に会えるという手軽さが、人々をオンラインゲームの世界にのめり込ませる要因となっていることだ。A調査機関の20XX年の調査によると、アメリカの8歳から18歳の「若年層」の8.5%が「ゲーム中毒」状態に(g){ } 陥る・陥っている { }ということだ。(⇒10課)

⑭ 児童虐待への対策を考える会議が開かれた。{ } この・その・あの { }会議では、虐待が起こったからの対策ではなく、未然に防ぐための方策が必要であることが確認された。(⇒11課)

⑮ 駅前の渋滞緩和のために、ロータリー交差点(円形交差点)の導入をする社会実験がA市で行われ、実験終了後、住民に対するアンケート調査が実施された。{ } この・その・あの { }結果、住民の過半数が「良くなった」と回答し、ロータリー交差点の効果がある程度実証された。(⇒11課)

⑯ この10年、学生や主婦、ホームレスといった「仕事の責任」を負わない者の自殺者数はほとんど変わっていない。(a){ } 一方・あるいは { }、会社員や自営業者、失業者等仕事に関わってきた者の自殺数は急増している。

(b){ } したがって・このように { }、現在わが国で働く労働者の中には、死に至るほどの過酷

第1課

書き言葉に統一する

か こと ば とう いう

書き言葉の文体と表現

TRY

まず、やってみよう

▶ 次の下線部は、レポート・論文として適切でしょうか。適切なら○、不適切なら×を書いてください。

方言使用の意識調査

ほうげん し ょう い しきしょう さ

1. はじめに

日本には、地方によって①いろいろな()方言が ②あります()。③しかし()、

➡ステップ2

➡ステップ1

➡ステップ2

最近はテレビやインターネットの普及によって文化や情報の画一化が進み、方言が消えつ

つある④って言われてる()。⑤それに()、世代によっては方言に対して⑥けっこう

➡ステップ2

➡ステップ2

()マイナスの価値観を持っている場合もある⑦から()、⑧そんな()意識も方言

➡ステップ2

➡ステップ1

➡ステップ2

離れの要因⑨みたいだ()。今の状態が⑩進んだら()、消滅⑪してしまう()方

ばな しょういん ➡ステップ2

じょうたい ➡ステップ1

しょうめつ ➡ステップ2

言も⑫あるんじゃないだろうか()。

➡ステップ2

では、実際に若者は方言を使用しなくなって⑬いるのだろうか()。本研究では、首都

➡ステップ1

圏、および関西地域の20代～70代の各世代を対象に、方言についての意識調査を行い、各

世代間の方言使用の実態について明らかにする。

せ だいかん

じったい

あき

POINT

▼ここがポイント

・書き言葉の文末*と接続表現*を用いることで、レポート・論文にふさわしい文章にすることができます。 ➡ステップ1

・使用する語彙や表現も書き言葉にすることで、書き言葉としての文体*を統一することができます。 ➡ステップ2

な悩みを抱える者が増えている。毎年 30000 人に上る人々の自殺を重く受け止め、単なる失業対策にとどまることのない労働政策を期待したい。(c) { また・または }、同時にメンタルヘルス(心の健康)の観点から、正しい情報の普及、専門家の育成、自殺手段へのアクセスの回避、自殺未遂者へのケア等の取り組みも必要だと言えよう。(⇒12課)

①7 近年、さまざまな種類のインスタント食品が販売され、忙しい現代人の食生活に欠かせない存在になって(a) { いる・いるのである }。しかし、これらの食品は健康にいいとは言えないため、現代社会の中で健康的な生活を保つには、便利な商品の取り入れ方が重要であると(b) { 考えている・考える }。そこで、このレポートでは、インスタント食品の長所と短所を述べ、どのように現代の食生活に取り入れていくのがよいかについて検討する。(⇒13、14課)

①8 筆者は2011年の原発事故が起こる前までは、原子力が低コストで地球にやさしいエネルギーだと(a) { 思った・思っていた }が、事故後は、事故対応にコストがかかり、土壌汚染や海洋汚染をもたらすエネルギーだと(b) { 考える・考えている }ようになった。原発事故後、原子力発電所の再稼働が少しずつ進められているが、果たして今後同様の事故が起こらないと(c) { 言えるか・言えるのだろうか }。このレポートでは、さまざまな発電方法の長所、短所について考察し、今後日本のとるべきエネルギー政策について検討する。(⇒13、14課)

①9 多くの会社員が過労自殺する背景には、毎月100時間を超す残業と、残業を個人の能力不足のせいだとする会社からの精神的圧迫があるようだ。これは、「死ぬほど苦しいのであれば会社を辞めればよい」と自殺者が冷静に判断できなくなるほど追い詰められた状態になっていることを表している { のだ・のではないだろうか }。(⇒13、14課)

ステップ1 書き言葉の文末と接続表現

レポート・論文のように専門的なテーマで書く場合は、書き言葉を使います。その際に気を付けなければならないのは「文体」です。文体は、大きく「です・ます体(丁寧体)」と「だ・である体(普通体)」に分けられます。レポートや論文等の硬い文章を書く時には「だ・である体」で統一して書きます。異なる文体を混ぜて書くことはできません。

名詞*とナ形容詞*は「だ」「である」のどちらも使えます。「である」のほうが「だ」より硬い表現なので、論文では「である」のほうが適しています。

	です・ます体(丁寧体)	だ・である体(普通体)
名詞	問題です	問題だ／問題である
	問題でした	問題だった／問題であった
	問題ではありません	問題ではない
ナ形容詞	重要です	重要だ／重要である
	重要でした	重要だった／重要であった
	重要ではありません	重要ではない
イ形容詞*	多いです	多い
	多くありません／多くないです	多くない
動詞*	考えられます	考えられる
	考えられません	考えられない
文末表現	調べています	調べている
	調べたいです	調べたい
	しなければなりません	しなければならない
	深刻化するでしょう	深刻化するだろう／深刻化するであろう
	言えるのでしょうか	言えるのだろうか／言えるのであろうか
	必要なのではありませんか	必要なのではないか
	必要なのではないでしょうか	必要なのではないだろうか
	必要なんです	必要なのだ／必要なのである

文末を「だ・である体」にするだけではなく、文と文をつなぐ接続表現もレポート・論文に合わせる必要があります。注意すべき接続表現を以下に挙げます。

	話し言葉／カジュアルな書き言葉*	レポート・論文の書き言葉	
並列*	通信手段には電話も <u>あるし</u> 、メールもある。	通信手段には電話も <u>あれば</u> 、メールもある。	
理由・原因	経済が悪化 <u>して／したから</u> 、失業者が増えた。	経済が悪化 <u>し／したので／したため</u> 、失業者が増えた。	
逆接*	努力した <u>けど／けれども</u> 、成功しなかった。	努力した <u>が</u> 、成功しなかった。	
	努力した <u>のに</u> 、成功しなかった。	努力した <u>が／にもかかわらず</u> 、成功しなかった。	
条件*	症 状が <u>進んだら</u> 、実生活にも影響が出てくる。	症状が <u>進むと／進めば／進んだ場合</u> 、実生活にも影響が出てくる。	
テ形接続*	動詞	調査を行って、結果をまとめた。 ※ 例外：調査が <u>遅れていて</u> 、問題となっている。	調査を行い、結果をまとめた。 ※ 例外：調査が <u>遅れており</u> 、問題となっている。
		政府は何の対策も <u>とらないで</u> 、済ませている。	政府は何の対策も <u>とらずに</u> 、済ませている。
		大きな事故に <u>ならなくて</u> 、幸いだった。 ※ 例外：相談する人が <u>いなくて</u> 、悩んでいる母親は多い。	大きな事故に <u>ならず</u> 、幸いだった。 ※ 例外：相談する人が <u>おらず</u> 、悩んでいる母親は多い。
	イ形容詞	その薬は問題が <u>多くて</u> 、使われなくなった。	その薬は問題が <u>多く</u> 、使われなくなった。
		値段も高くなくて、性能もいい。	値段も高くなく、性能もいい。
	ナ形容詞 名詞	この方法は複雑で、時間もかかる。 その点は <u>問題ではなくて</u> 、別の点が問題なのだ。	この方法は複雑 <u>で／であり</u> 、時間もかかる。 その点は <u>問題ではなく</u> 、別の点が問題なのだ。

※ テ形接続と連用形接続*は、どちらもレポート・論文で使うことができます。ただし、テ形接続は話し言葉、あるいはカジュアルな書き言葉なので、使いすぎには注意しましょう。特に、イ形容詞・ナ形容詞・名詞の「～なくて」の形はあまり使いません。

練習1 次の文を、レポート・論文にふさわしい文体と書き言葉にしてください。

- 1) 筆者がインタビューをした A 氏は大学 3 年の時から就職活動をしていたのに、大学を卒業した今でも就職できなくて、アルバイトで生活しています。
- 2) 円高が進んだら、輸出産業が落ち込んで、多くの企業が倒産に追い込まれるでしょう。
- 3) 今までの実験方法は、手順が複雑で、結果の数値が確実ではなくて、適切とは言えません。

4) 小学校での英語が必修化されたけれど、果たして効果はあるのでしょうか。

5) ここ数年の失業率の上昇は、景気の悪化が原因なのではないでしょうか。

▶▶ ステップ 2 書き言葉の表現

文末や接続表現だけでなく、使用する語彙も、書き言葉にすることが必要です。以下に話し言葉と書き言葉の区別をするべき表現を挙げます。

	話し言葉	レポート・論文の書き言葉
副詞*	全然変わらない	まったく変わらない
	みんな／全部正しかった	すべて正しかった
	だんだん変化した	徐々に／次第に変化した
	どんどん増加した	急激に／急速に／ますます増加した
	いっぱい／たくさん確認できた	数多く／多数確認できた
	とても／すごく重要だ	非常に／極めて重要だ
	一番重要だ	最も重要だ
	たぶん間違いないだろう	恐らく間違いないだろう
	ちょっと変化した	少し／多少変化した
	もっと深刻になるだろう	より／さらに深刻になるだろう
	そんなに問題ではない	それほど問題ではない
	けっこう大変だ	※
	ずいぶん変化した	※
連体詞*	いろんな種類がある	いろいろな／さまざまな種類がある
	こんな／こういう意見	このような／こうした意見
	そんな／そういう意見	そのような／そうした意見
	こんなに深刻化している(のはなぜか)	これほど深刻化している(のはなぜか)
疑問詞*	どうして減少したのだろうか	なぜ減少したのだろうか
	どんな方法があるだろうか	どのような方法があるだろうか
	どういうふうに変化したのか	どのように変化したのか
接続詞*	でも、変化はなかった	しかし、変化はなかった
	だから／それで、料金も高い	そのため／したがって、料金も高い
	それに、物価が高い	また／さらに／その上、物価が高い

助詞*	対策が必要だ <u>って</u> 思う	対策が必要だ <u>と</u> 思う
	A <u>とか</u> B <u>とか</u>	A <u>や</u> B <u>等</u>
縮約*	重要 <u>じゃ</u> ない	重要 <u>では</u> ない
	重要な <u>んだ</u>	重要な <u>のだ</u> ／重要な <u>のである</u>
	重要な <u>んじゃないか</u>	重要な <u>のではないか</u>
	少子化が <u>進ん</u> じゃう	少子化が <u>進んで</u> しまう
	考えなく <u>ちゃ</u> いけない	考えなく <u>ては</u> いけない
	考えて <u>る</u>	考えて <u>いる</u>
その他	今回 <u>みたい</u> な問題 温暖化が <u>進んで</u> いる <u>みたいだ</u>	今回のような問題 温暖化が <u>進んで</u> いる <u>ようだ</u>
	*田中先生は <u>～とおっしゃ</u> っている	田中は <u>～と述</u> べている
	*調査を <u>さ</u> せてもらった	調査を <u>行</u> った

※「けっこう」「ずいぶん」のように主観が強い副詞、敬語、授受表現*はレポート・論文では使いません。

ここで挙げた表現は主なもので、これがすべてではありません。この他にもさまざまな表現があるので、レポートや論文を読む際には、どんな表現が使われているか注意しましょう。

練習 2 次の文には話し言葉が混じっています。書き言葉にしてください。

- 今回の会議では、少子化対策とか温暖化対策とか、解決しなくちゃいけない問題について、たくさんの意見が出された。
- 消費税を廃止すべきだという声があがっているみたいだ。でも、私はそれには反対だ。
- 家庭内暴力がけっこう問題になっているが、どうしてこんなに増えてるのか考えた。
- 小学6年生100人に、携帯電話を持ってるかアンケートした結果、53%が持ってるって答えてくれた。
- 山本先生は、その著書の中で、テレビの暴力シーンが子供に与える影響について指摘なさっている。



レポート・論文で●実際にどう使う？

レポート・論文を書くための文体・接続表現・語彙を使うことによって、専門的でアカデミックな内容にふさわしい文章にすることができ、レポート・論文としての体裁を整えることができます。

実践 使ってみよう

1) 次の文を、レポート・論文にふさわしい文体と書き言葉にしてください。

- ① 政府はいろんな政策を挙げているけど、どれも国民への負担が増すって感じてる人が多いんじゃないでしょうか。
- ② 運転者は飲酒運転の危険性をそんなに意識しないで、ちょっとなら大丈夫だって思っちゃうみたいだ。
- ③ 幼児虐待がずいぶん増えているけど、どうしてこんなことが起きるんでしょうか。また、周囲の人々や行政の助けによって防ぐことができるんでしょうか。
- ④ ゲームが子供の暴力性に影響を与えるかについてのデータはまだ十分じゃないから、今後はもっと長期的な実証研究をしなくちゃいけない。
- ⑤ いじめ問題があったとしても、学校側はいじめの存在をなかなか認めようとしません。いじめの現場を教師が直接目にしていない限り、教師もいじめだと断定しにくいんです。だから、子供たちは学校に相談できなくて、いじめが深刻化するんじゃないかって思います。

2) 次の文章には、レポート・論文にふさわしくない点があります。不適切な箇所を書き換えてください。

少子化対策—フランスと日本を比較して—

セバスチャン・ボルドー

1. はじめに

現在の日本において、少子化は一番深刻な問題の一つです。少子高齢化により日本の人口

は減少していて、このまま何もしなかったら、50年後には現在の約3分の2になるって言われてます。少子高齢化に伴う人口の減少によって、国内市場の縮小とか、労働力の減少による経済の衰退、それに年金問題をはじめとする社会保障の問題とか、たくさん問題が誘発される恐れがあるから、何らかの対策を考えなくちゃいけない。

こんな少子化の問題を抱えてるのは、日本だけではなくて、世界の多くの国々でも同様の問題に直面している。でも、フランスやスウェーデン等は、一時出生率の低下はあったけど、現在は回復傾向にあり、少子化問題を克服してる。どうして少子化に陥る国と、そこから脱却する国があるんだろうか。その違いは何でしょうか。本レポートでは、フランスと日本の出生率の推移と政府の対策を比較することで、日本が少子化に陥った原因を探って、今後必要とされる対策について検討する。

2. フランスの場合

(中略)

3. 日本の場合

(中略)

4. 考察

(中略)

5. まとめ

以上、フランスと日本の比較から、日本の少子化の原因は、晩婚化とか子育てによる経済的負担の大きさ、育児環境の不整備とかだってわかった。フランスが少子化から脱却できた要因の一つが、保育の充実や、出産・子育て等の環境整備による「両立支援」の政策であることから、日本でも、各家庭への経済支援だけでなく、就労に関していろんな選択ができるような環境整備を行うことが重要となるでしょう。(後略)

さらに 練習したい人のために

文体や書き言葉に注意しながら、あなたの専門や関心のあるテーマについて、なぜそのテーマに関心があるのかを説明する文章を書いてみましょう。